

世界のあしたが見えるまち。



研究室にて

国立研究開発法人 産業技術総合研究所
計量標準総合センター (NMJ) 物質計測標準研究部門
バイオメディカル標準研究グループ 研究グループ長
Megumi Kato 加藤 愛 さん

東海村生まれ。東北大学農学部生物化学科卒業後、同大学院農芸化学科を経て産業技術総合研究所に入所。筑波大学大学院で病態制御医学を専攻し博士号(医学)取得。現在は計量標準総合センター(NMJ)でバイオメディカル分野の標準物質開発を行う。

つくばで輝く
女性研究者

パク質を種類によらず高精度に測るため、構成単位のアミノ酸に着目して新開発した同位体希釈アミノ酸分析法(DDMS-AA法)は、タンパク質やペプチド認証標準物

《高精度な計測技術》
アミノ酸やタンパク質などを高精度に測定する分析法を研究開発し、医療や食品業界などバイオメディカル分野で利用可能な標準物質の開発と供給を行う。人間の体を構成する約10万種類のタンパク質は、20種類のアミノ酸の組み合わせからできている。そのタンパク質を種類によらず高精度に測るため、構成単位のアミノ酸に着目して新開発した同位体希釈アミノ酸分析法(DDMS-AA法)は、タンパク質やペプチド認証標準物



研究風景

高精度測定が生む
新たな「標準」

質開発の基盤技術となっている。さらにDDMS-AA法の基準物質として開発した17種類のアミノ酸認証標準物質は、食品や飲料、試薬などのメーカーにも供給され、それぞれの製品中のアミノ酸の高精度測定などに用いられている。「オーブ」な研究分野ですが、BIPM(国際度量衡局)や他国の計量研などとの国際連携も重要です」

《研究者への憧れ》

東海村生まれ。原子力研究所の研究者だった父に憧れ、幼少の頃から同じ道に進むことを決めていた。中学では卓球部、高校ではバドミントン部で活躍した体育会系女子。これからはバイオテクノロジーという父からの進言



家族でのプーケット旅行

《つくばの暮らし》

つくば市に暮らして18年。学生時代のバドミントンサークルで出会った夫と9歳の愛娘と3人暮らし。「夫が夕飯の支度や洗濯、子どもの送迎など家事全般に協力してくれ、PTAや児童館の集会などにも積極的に参加してくれるスーパーパパに感謝です」と笑顔。家族全員の趣味はバドミントン。つくば市内のサークルに参加し、親子で汗を流す。小学生の時に両親と訪れた科学万博は、今も記憶に残っています。科学を身近に感じられるつくばの環境の中で子育てできるのはうれしいですね」